

日風堂

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第75号 2011年6月1日

資料見聞

1945年 戦後1号の玩具

小菅のジープ



岡本 桂典

1945年8月15日、日本は暑い夏の日に終戦を迎え、敗戦の絶望と虚脱感にみまわれていました。都会などでは食糧不足と横行するヤミ市、そして戦災による孤児たちの姿が悲しくもそこにありました。

東京の「(玩具)業界の中心地であった本所、深川、浅草は、ただ一面の焼け野が原で、夏草の茂るにまかせていた。」と日本金属玩具史編纂委員会の『日本金属玩具史』(昭和35年)には、こう書かれています。また「子どもたちの手には、ただ一個の玩具すらなかった」と。それとは対照に銀座のPX(アメリカ軍用酒保)では、日本の人形や玩具を買い求めるアメリカ兵の姿があったと先の『日本金属玩具史』には記されています。ここでは、お腹を空かした子ども達がチョコレートなどをねだっていました。アメリカ兵のもとには、彼らが使用している頑強なあこがれのジープがありました。そのような悲惨な状況の中でも子ども達は遊びを見つけました。

そのころ玩具業界から一人の人物が立ち上がりました。滋賀県大津に疎開



ジープNo.1 (レプリカ) 1980年代 小菅
おもちゃのまちバンダイミュージアム蔵

していた小菅松蔵氏でした。斎藤良輔著『昭和玩具文化史』(昭和53年)によると、小菅氏は戦争により金属玩具の製作が不可能になると、写真機の部品作りをして、軍に納めていました。さらに戦火が激しくなると軍の命令で大津へ工場を移していたのです。幸いにも材料が戦後も残っていたので、日本中で走っていたアメリカ軍のジープの玩具を思いついたのです。このジープは小菅のジープと呼ばれています。ゴム動力で走り、塗装は吹きつけ塗装、

製品を入れる箱すらなかったのです。発売は、なんと終戦の年の12月、京都の丸物百貨店で、当時



ジープが描かれた子ども茶碗
(高知県宿毛市採集) 高橋俊和氏蔵

としては高い1台10円で販売されたのです。大人にも羨望の的であったジープは、人気を集め、10万台が販売されたともいわれています。その後、東京でもジープの玩具が販売されたのです。戦後、岐阜県で製作されたと思われる子ども茶碗にもジープが描かれています。そこには、「Good bye グットバイ」と子どもに手を振るアメリカ兵の姿が描かれています。ジープが羨望の的であり、時代を象徴したものであったことがわかります。玩具や子ども茶碗にも戦後の歴史が刻まれているのです。

参考文献

日本金属玩具史編纂委員会『日本金属玩具史』(昭和35年)
社団法人日本玩具協会監修・斎藤良輔著『昭和玩具文化史』(昭和53年)

特別展

開館20周年特別展

おもちゃやと模型のワンダーランド展

会期 平成23年7月8日(金)～8月31日(水)

岡本 桂典

●主催／(財)高知県文化財団・高知県立歴史民俗資料館・NHK高知放送局・NHKプラネット四国 ●特別協力／バンダイ 制作協力／NHKプロモーション

高知県立歴史民俗資料館で郷土玩具を含めた玩具を取りあげた企画展は、平成7年度「おもちゃー遊びのかたち」

ダイ(以下バンダイ)に特別にご協力いただいています。

※

平成13～14度にかけて開催した開館10周年関連企画展「ふるさと土佐のおもちゃとおひなさま」、同年夏の「金太郎さんと土佐のおもちゃ ハツケヨイ!郷土玩具」、平成19年度冬には、「なつかしのおもちゃー高橋俊和さんのコレクション」があります。近年では、平成22年度に山崎茂さんがコレクションした全国の郷土玩具の一部を公開した企画展「昔のおもちゃ博物館」を開催しており、今回で6回目となります。

おもちゃと言えば、だれもが当時の色々な思い出や暮らした風景、そして時代背景などを思い浮かべると思いますが。さらに、おもちゃは人をなつかしい世界へ誘うかもしれません。しかし、そのおもちゃには、時の背景や当時の価値観、社会や世相なども反映されています。実はおもちゃは、私たちの歴史ととても関係があり、一つの文化でもあるのです。

開館20周年特別展「おもちゃと模型のワンダーランド展」は、有名な玩具メーカー、株式会社バンダイがコレクションした玩具や模型の一部を3階総合展示室を会場に展示します。

なお、この特別展は、(財)高知県文化財団・高知県立歴史民俗資料館・NHK高知放送局・NHKプラネット四国が主催となって開催し、株式会社バン

ダイ(以下バンダイ)に特別にご協力いただいています。

おもちゃには、子どもや大人の目を引き、楽しませるために、色々な工夫がされています。そして、価格も安いものが好まれます。そこには、職人達の知恵や工夫が隠されています。おもちゃは玩具という製品でありながら、目を転じると職人の一つの「作品」でもあるのです。

時代が変化しても子どもたちの豊かな想像力や心を育ててきたおもちゃの原点は、変わらないのかもしれませんが。おもちゃは、子どもにとっては貴重な宝物ですが、一方では壊されたり、飽きられ、捨てられて残らないことが多いのです。大事にとつてあつたメンコやおもちゃを両親に捨てられた経験をもつ方もあると思います。大量生産により作り出されたおもちゃは、大量消費され、残されていくことは極めて少ないのです。

バンダイは、ロボット玩具の超合金やガンブラ(ガンダムのプラモデル)などのキャラクター玩具のヒット商品を生み出しました。近年ではたまごっちなどが記憶に新しいのではないのでしょうか。

バンダイが世界でも有数のおもちゃコレクションを所蔵していることは一般には、あまり知られていないようです。かつて、ロンドン・トイ&モデルミュージアムが所蔵していた資料、約7000点のコレクションを平成13年

に譲り受けました。その後、トーマス・エジソンの発明品も譲り受けています。さらに、旧日本玩具資料館の資料も譲り受けているのです。バンダイは自身のサンプルを含めると約5万点の資料を所蔵しています(櫻田純「面白すぎる「おもちゃ」研究序説」2009年9月による)。

さて、本展では時代の変化とともに進化し多様化してきたおもちゃの歴史を新たな視点で見直し、紹介します。展示構成は左記を予定しております。

- 第1章 ロンドンからの贈りもの
～鉄道模型からドールハウスまで～
- 第2章 戦後のおもちゃの歩み
～日本玩具コレクションを中心～

展示されるおもちゃを幾つか見てみましょう。



①糸巻きはずみ車の機関車 1880年 ドイツ
鉄道模型や玩具を知る上で重要な資料
おもちゃのまちバンダイミュージアム蔵

第1章は、「I 旅への憧れ―鉄道模型の魅力」・II 掌上の宇宙―人形・ドールハウス・鉛の兵隊」・III テクノロジーの誘惑―金属玩具の世界」の3節となります。

第1章「I 旅への憧れ―鉄道模型の魅力」の見所の一つは、ロンドン・トイ&モデルミュージアムが所蔵していた鉄道模型です。鉄道がいかに愛されてきたかを示すものです。

産業革命以後、蒸気機関車が生み出され、交通網が発達しました。人間の空間への意識が大きく変化し、新しい時代への息吹を感じたことでしょう。前頁の①「糸巻きはずみ車の機関車」は、1880年製（日本は明治13年）で、



②サザン鉄道2-B-0 900形 テンダー蒸気機関車
「ETON」1910年 イギリス 62×400×98mm
おもちゃのまちバンダイミュージアム蔵

フライホール（はずみ車）の珍しいものです。レールの上を走らせるものではなく、床で走らせるもので、「フロアートレイン」と呼ばれています。大きさは、約8×18×10cmです。櫻田純氏（櫻田純『面白すぎる「おもちゃ」研究序説』2009年9月）は、フロアートレインは黎明期の鉄道模型で、後の鉄道模型はこれから進化していくと指摘されています。

「II 掌上の宇宙―人形・ドールハウス・鉛の兵隊」では人間の似姿として長い歴史をもつ人形を紹介します。現在の人形のように高度で多様性のある人形が登場してくるのは19世紀以降のこと。西洋の人形で人気のあるものがビスク・ドールです。ビスク・ドールとは、高温で素焼きした後、色つけし、低温で再度焼成したものです。人間の肌に近い質感がだせるといことが特徴です。しかし、日本の市松人形



③ビスク・ドール 1890年 フランス
215×114×495mm
おもちゃのまちバンダイミュージアム蔵

もまけてはいません。慶応3年（1867）のパリ万国博覧会に日本も参加しています。

フランスのおもちゃ業界は、市松人形の肌のきめ細かさに衝撃を受けたといえます。ワックス・ドール（イギリス・1880年代）、クロス・ドール（イギリス・1930年代）や家具などの生活の空間を再現したドールハウスの展示も予定しています。

「III テクノロジーの誘惑―金属玩具の世界」では、金属玩具を紹介します。産業革命以後の工業技術の発展は、おもちゃの世界にも影響を与えました。工業用機械の登場により、ブリキなどの金属板はプレスすることで、いろいろな形に加工されて塗装されました。

そして、大量のおもちゃが流通しました。蒸気機関車・トラックなどの自動車、飛行機・バイクなどです。小物玩具やゼンマイ仕掛けのレコードといったもの



④ネズミと少女 1920年代 ドイツ
110×16×130mm
おもちゃのまちバンダイミュージアム蔵

もありました。日本製のゼンマイ仕掛けのおもちゃが海外向けに生産され、一部日本でも販売されたものも展示を予定しています。

第2章は、戦後のおもちゃの歩み―日本玩具コレクションを中心に―「I 戦後復興期の玩具」・「II 時代を彩ったおもちゃたち」・「III キャラクター玩具の興隆」の3節になります。ここでは、旧日本玩具資料館が所蔵していたものを軸として紹介します。日本の昭和前期のおもちゃの生産は、ドイツに次ぐ生産量を誇っていましたが、戦争により玩具生産地も灰燼に帰しました。終戦直後の玩具については巻頭で少し紹介しておきました。

戦後、日本はおもちゃ大国となっていきました。しかし、その歴史を刻む博物館施設さえも持っていないでし



⑤チャンピオンレーサー-38・チャンピオンレーサー-見本品
(1968年・1963年) 増田屋 約180×450×150mm
おもちゃのまちバンダイミュージアム蔵

た。玩具メーカーの自社に1点も残っていない玩具さえありました。佃光雄氏はこれを憂い私財を投じて(財)日本玩具資料館を1981年に設立し、業界の協力を得て市場に流通しなかった資料も収集しました。施設の目的は「何時、誰が、何処で、その様な玩具を造り商ったかを業界人に見てもらい、一般の方々にも約50年の玩具の流れをご覧に入れ家庭教育の一端に、また子供との会話に入れて頂く」ことにあるのです。残念ながら2004年に閉館しましたが、バンダイにその資料は

引き継がれました。その一端を紹介し
ます。⑤の写真の右は、珍しいチャン
ピオンレーサーの見本品です。

「5人のギャング」と呼ばれる増
田屋から販売され現存数が少ない、
1962・63年製の高さ約40cmの「ソ
ニックトレインロボット」など計3体
も展示を予定しています。また、「ア
トム」や「鉄人28号」、「エイトマン」
などのキャラクター玩具も紹介します。
是非楽しみにしてください。

おもちゃと模型のワンダーランド展
の紹介を書くにあたり左記の文献を引
用・参考にさせて頂きました。記
して謝意を申し上げます。

参考文献

1 NHKプロモーション・福島県立美術館

(「おもちゃと模型のワンダーランド展」

図録 2007年)

2 櫻田純 (「面白すぎる「おもちゃ」研究序

説」 2009年9月



⑥犬のクックさん 1963年 トミー
170×150×230mm
おもちゃのまちバンダイミュージアム蔵

テーマ展示

土佐の夏の民俗行事

梅野 光興

3月から8月まで企画展、特別展
が続くため、民俗部門の常設展示は
1階の企画展示室で行なうことにな
りました。「海に生きる人びと」と
「山に暮らす人びと」の二つのコー
ナーは、ほぼそのまま移動しまし
た。その他の資料の多くはこの機会
に休ませました。その分、春から夏
にかけての年中行事に関する資料を
増やし、テーマ展示「土佐の夏の民
俗行事」としました。

最初は五月の節供です。鯉幟(こいぼし)やフ
ラフ、幟を展示しています。フラフ



鯉幟とフラフ。左上と右下が紙製の鯉幟。

は初夏の土佐の風物詩ですが、江戸
時代には見られない新しい習慣のよ
うです。大正14年(1925)刊の
寺石正路『土佐風俗と伝説』には「男
子の生家は旗幟を立て(このごろは
紙鯉)」とあり、フラフの語は見え
ません(旗幟がフラフの可能性もあ
ります)。それが昭和11年(1936)
の「土佐民間行事に関する調査」(土
佐史壇)になると「男児のある家
では庭に鯉幟やふらふ(武者絵を描
いた大旗)をたて」とあり、フラフ
の語が出てきます。フラフの説明
を()内に書いてあるところをみ
ると、まだこの頃フラフという語が
なじみが薄かったのかも知れません。
今回は昭和31年頃のフラフを展示し
ていますが、土佐では大正時代に流
行り始めたとおぼしき紙の鯉幟も展
示しています。いずれも今回初公開
の資料です。

また、田植えの時期に祭るオサバ
イ様、稲の害虫を追い払う虫送り、
水難よけを祈って祭るエンコウ、七
夕の馬、盆など、初夏から夏の行事
を紹介しています。



現代史を掘る

近・現代考古学―玩具屋跡―

岡本 桂典

京都帝國大學名誉教授であった濱田耕作博士（1881〜1938年）は、『通論考古学』（1922年）の中で「考古学は過去人類の物質的遺物（に拠り人類の過去）を研究するの学なり」と定義しています。考古学は一般的に文献が存在しない時代を対象としていると考えられていますが、最近「近・現代考古学」（『季刊考古学』第72号、2000年）という特集が編まれるように近・現代遺跡への関心が高まっています。

平成19年に玩具屋倉庫跡から発掘された玩具について『岡豊風日』第62号（平成19年12月）で少し触れたことがあります。この玩具が採集されたのは、今から12〜15年くらい前のことです。出土地は、高知市旭町一丁目19にあった正木玩具店裏の撤去された倉庫跡です。一部玩具が表土面に頭を出していたのを高橋俊和さんが発見されたのです。

出土玩具は、赤色セルロイド製の服を着た子どもの人形1体、セルロイド製の白鳥4点（①長さ7・9cm、高さ

5・4cm、②長さ6・9cm、高さ4・8cm、③長さ7・8cm、高さ5・3cm、④長さ5・9cm、高さ4・3cm）、色調は白色を基本とし、くちばしと足を赤色、羽の一部を淡青色などの塗料で着色したものです。そしてガラス製の石蹴り玉5点です。セルロイド玩具には、一部発掘された地点の土が付着しています。人形は高さが13・2cmで、スカートの最大幅6cm、手を広げた大きさは10・4cmです。腕は体部の左右に孔を開け白のゴム紐で腕を繋ぎ回転できる作りになっています（現在は黒のゴム紐に交換）。顔面と服の一部を白色系の色で着色し、目を黒く塗り、眉とまつげは桃色など塗料などで着色しています。腕は、別製作なのか表面や色調がやや異なっています。

石蹴り玉は、ガラス製で石蹴りに用いられた玩具です。石蹴りのガラス表面には、ジャンケンの「グー」「チョキ」「パー」の手の形を型押し、さらにカタカナで文字が型押しされています。表面は型押しされたため、端部の片面が盛り上がっています。裏面は土

の上面で蹴るため平坦になっています。裏面の文様は、渦巻き状を呈するものと、一線をいれるものがあります。色調は、濃い緑色のガラス色と淡い青色があります。法量は表のとおりで、重さは約14〜19gあります。長径は約39〜41mm、短径は約35・5〜38mm、厚さは約7〜8・5mmとなっています。

	重さ(g)	長径(mm)	短径(mm)	厚さ(mm)
石蹴り パー①	18.71	41.1	36.9	8.4
石蹴り パー②	14.83	39.9	36.7	7.2
石蹴り パー③	17.18	39.2	36.9	8.5
石蹴り グー	17.68	39.7	35.5	7.7
石蹴り チョキ	18.59	39.4	38.4	7.3

石蹴り玉計測表



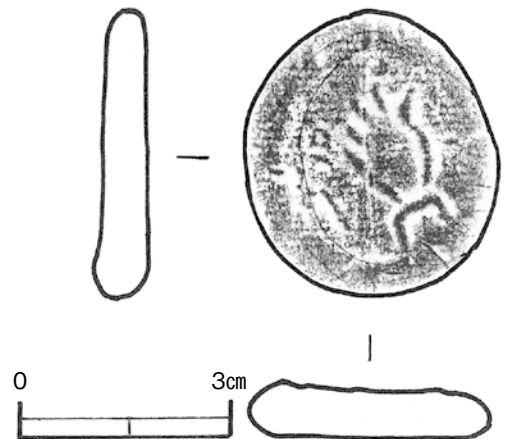
白鳥（高橋俊和氏所蔵）



白鳥下部に刻された英文

具が、静かに倉庫に眠っていたと考えられます。

同一の時期のものと推定されます。白鳥に「メイド・イン・オキュバイド・ジャパン」(MADE IN OCCUPIED JAPAN、(占領下の日本製))と刻されていることから、1947〜1952年くらいのもものと考えられます。戦後、間もない頃の玩具が、静かに倉庫に眠っていたと考えられます。



石蹴り玉パー（高橋俊和氏所蔵）
（西田由紀原図）

考古

岡豊山の遺跡

⑧ 岡豊山古墳の発見



岡豊城跡出土の壺図
(高知県史 考古資料編 1973年より)

『岡豊風日』第74号の「学芸員の机」では、岡豊城跡から鬼瓦が出土していたのではないかと指摘しておきました。但し、残念ながら実物は確認されていません。それと同時に古墳から出土したと思われる土器などについても詳しく記述されています。これらの資料は、現在の南国市を流れる領石川右岸沿いに位置する領石の地区で確認されているようです。領石に当時収集家がいたことが考えられます。因みに領石では明治時代に英国人ゴードランドにより3基古墳が発見され、1897年帰国後に報告しています。領石のどこかに出土資料が残っていれば貴重な資料となるのですが、土器は記述とスケッチにより須恵器であることは、推定できます。土器の文様は、波状文と格子目と考えられます。底部については、「イトシリナシ」とあり、底部の形状が丸いことを言っていると考えられます。土器の特色についても「土焼ニシテ青色ナリ質石ノ如シ」とし青く堅いことを書いています。さらに、古墳から馬具が出土していたことが記述されています。「異形ノ神代劔」とされているものも出土していたことがわかります。これらのことによりかなりの古墳が盗掘や開発で破壊され、たことが推測できます。この須恵器は岡豊山から出土したものなのでしょうか。

(岡本)

歴史

南方熊楠顕彰館にて

和歌山県田辺市に、博物学者として名高い南方熊楠の旧邸が今も現存しています。その敷地の一角に建つ顕彰館から出講の依頼を受けたのが本年2月のことでした。

熊楠と、土佐の郷土史家・寺石正路の交流については、当館『研究紀要』第6・8号における拙稿や、企画展「寺石正路の足跡」などで何度かご紹介しています。1915年に正路が『食人風俗志』を献本したことからは始まった2人の交流は、1930年頃まで続き、その間に熊楠から正路に送られた書簡11通、葉書18通は現在当館に収蔵されています。しかし、正路が熊楠に送った書簡類や、柳田国男との論争のため、熊楠から依頼されて送付した種々の資料についてはこれまで把握できておらず、謎の部分も多かったのです。

しかし、今回の訪問で、正路が送った大半の書簡と資料、そして寄贈本が遺されていることが分かりました。また、献本された本の多くが痛みも少なく、まるで昨日送られてきたかのような状態のものがあつたのは驚嘆しました。

東京大学予備門の同級生だった2人。まだまだ研究する余地がありそうです。

(野本)



南方熊楠顕彰館蔵

民俗

佐川町の太刀踊りと花取り踊り

昨年の11月、佐川町に伝わる太刀踊り(四ツ白仁井田神社)と花取り踊り(斗賀野白倉神社)を見学しました。ふたつの踊りは同じ系統の芸能なのですが、衣裳や被り物がまったく異なります。なぜ同じ町内なのに、このような違いが生まれたのでしょうか？

特に史料も無いため真相は闇の中ですが、周辺に目を向けると、四ツ白に似た太刀踊りは、日高村や土佐市蓮池に分布しています。一方、斗賀野の衣裳は須崎市や津野町の花取り踊りに似ています。どうやら、佐川町域は両方のタイプが重なる地域だったようです。かつては佐川町の中心部にも花取り踊りがあったようです。残念ながら今ではその踊りは無くなっていますが、その流れを汲む踊りが仁淀川町に伝わっています。その出で立ちは、まさに須崎・津野系統。佐川町の複雑な文化の流れがわかります。

(梅野)



太刀踊り (四ツ白仁井田神社)



花取り踊り (斗賀野白倉神社)

平成22年度美術館等運営研究協議会開かれる

平成23年2月1日(火)～2日(水) 2日間の日程で東京都千代田区一ツ橋国立大学財務・経営センター学術総合センターを会場に美術館等運営研究協議会が文化庁主催で開催されました。北は青森県から南は沖縄県まで154名の参加者がありました。初日は、講演・事例発表のスタイルで文化庁より行政説明および4つの美術館・博物館の取り組みについて発表。質疑応答、情報交換会を実施しました。2日目は、研究協議(3分科会)「エデュケータの人材育成について」「地域社会との連携方策について」「学校教育との連携方策について」「ワールドカフェ方式」テーマごとに分かれ、意見交換・討議を行いました。参加者の顔ぶれも多彩で美術館・博物館館長、副館長、学芸員、広報担当、事務局、指導主事、大学教授、教育委員会担当者等多岐にわたっていました。博物館は、①専門的な調査研究の場、②資料の収集・保管が中心、③貸し館としての展示会場。プラス今後の博物館像として観光・地域振興の拠点等、地域に開かれた役割を果たすことも期待されています。(寺川)

平成23年度岡豊山フォトコンテスト結果報告

今年も岡豊山春の恒例企画「第6回 岡豊山フォトコンテスト」が開催され、31点の応募がありました。年々写真の作品レベルが上がっており、初回より審査委員長をお願いしている、天然写真家・前田博史氏も「毎回選考に悩みます。」と言われておりました。この内で今回は最優秀賞の門田勝一さんの



最優秀賞 「歴史民俗資料館の朝」 撮影：門田勝一さん

「歴史民俗資料館の朝」と入賞者の方々をご紹介させていただきます。応募全作品は、当館1階のフリースペースにて、6月26日まで展示していただきますので、ぜひご覧になっていただきたいと思っております。次号の「岡豊風日」では、優秀作品2点をご紹介します。来年も皆様の作品の応募をお待ちしております。(猪野)



入賞者の皆さん(くろしお君も応援に来ました。)

収蔵資料の調査

高知市東久万出土の銭貨約7万枚の再調査と整理



東久万西山出土の銭貨(発見時)

昭和39年頃、高知市東久万西山で埋められた銭貨が約7万枚土取作業中に発見されました。発見者は高知新聞社の記者さん。考古学者にすぐに連絡をつけ、ジープで駆けつけました。くず鉄屋に向かっているリヤカーを発見、その荷台には軽トラック1台分の銭貨が積まれていました。これら銭貨は貴重な埋蔵文化財。高知県は早速昭和40年3月19日に購入、保存することになりました。購入金額は8万円です。現在再調査で、約1万枚の銭貨を分類しました。銭貨は、中国から輸入されたものですが、15世紀に埋められたと思われず。一つ一つ、錆取りをしています。発見当時銭貨は、常滑の甕に納められていたようです。(岡本)

前田博史写真展「心海」開催!

天然写真家・前田博史氏の今年のテーマは「海」でした。しかし直前に発生した東日本大震災の津波により、多くの方々が犠牲になられたことに心を痛めて、中止しようか。とまで考えられていたようですが、この時期だからこそ自然の優しさ・荒々しさをありのままにとらえた前田氏の作品を見ていただき、お客様に人と自然のつながりを考えていただくよう開催しました。

観覧に訪れたお客様からは、この時期にこのテーマでの開催を非常に好意的に取られた感想を多くいただきました。「自然と人との繋がりを深く受け止めることができ、本当に感動しました」「今回の荒々しい海だけでなく、やさしい海の表情を思い出し、海への恐怖が消えました」等々のいろいろな感想をいただき、前田氏も開催して良かったと話されていました。尚、会場には義援金の募金箱を置き、皆様の善意と元気を被災地の方々に送らせていただきます。(猪野)



「心海」展示風景

秋のもうひとつの写真展

※「土佐を撮る一田辺寿男の民俗写真3」の開催に併せて「東京写真月間2011」実行委員会の開催した写真の日記念：公募による写真展2011の入賞作品巡回展を中四国では初めて高知で開催します。

期間：平成23年10月9日(日)～10月23日(日)
会場：当館2階多目的ホール(当館観覧料が必要です。)



主催：東京写真月間2011実行委員会
(日本写真協会、東京都写真美術館)
後援：外務省、文化庁、東京都、インドネシア大使館
詳しくは「東京写真月間2011」を検索して下さい。

土佐のまほろば カルチャーウォーキング

7月3日(日)
国府地区 9:00～12:00
定員30名
(電話等で要申込、先着順)
参加費300円(資料代)



3階総合展示室の臨時閉室について

3階総合展示室は企画展・常設展示資料撤去及び特別展展示作業のため下記の期間閉室します。

なお2階「長宗我部展示室」と1階「高知県の民俗」は見学できます。

- 6月27日(月)～7月7日(木)
 - 9月1日(木)～9月9日(金)
- (9/1～9/9は長宗我部展示室のみ見学可)

岡豊風日(おこうふうじつ) 第75号
平成23年6月1日
編集・発行 高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 0888-862-2211
FAX 0888-862-2110

開館時間
午前9時～午後5時
休館日
年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり
通常期(常設展 大人(18才以上) 450円・団体(20人以上) 360円
(企画展常設展示込 500円・団体 20人以上) 400円
無料：高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)

印刷：川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール：rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

特別展

おもちゃと模型の ワンダーランド展

平成23年7月8日(金)～8月31日(水)

7月8日は開会式のため午前10時にオープン

「おもちゃ」はその時代の科学や技術とともにライフスタイル、ファッション、流行なども反映しています。「おもちゃ」には時代の記憶があり、当時の生活や時代の特徴を表現しているといえます。

今回の展示は、玩具メーカーの(株)バンダイが所蔵するロンドン・トイ&モデルミュージアムがかつて所有していたコレクションとさらに旧日本玩具資料館などが所蔵していたおもちゃを展覧します。



ダンシング・モンキー 1962年
おもちゃのまちバンダイミュージアム蔵

主催/財高知県文化財団・高知県立歴史民俗資料館・NHK高知放送局・NHKプラネット四国
特別協力/バンダイ 制作協力/NHKプロモーション
後援/高知県教育委員会・高知新聞社・RKC高知放送局・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・エフエム高知

特別展 おもちゃと模型のワンダーランド展

展示室トーク ● 予約は不要です。

7月9日(土) 13:00～14:00

8月6日(土) 13:00～14:00

担当学芸員による特別展の展示解説

※上記の催しは全て観覧料が必要です

ワクワクワーク ● 電話等で要予約(先着30名)

● 8月6日(土) 10:00～12:00

七夕飾り

● 8月13日(土) 10:00～12:00 ※参加費840円(予定)

琥珀(こはく)で勾玉を作ろう

● 8月20日(土) 10:00～12:00 ※参加費要

ポンポン船等で遊ぼう

● 8月27日(土) 10:00～12:00

水鉄砲を作ろう

2011年 秋の企画展

「土佐を撮る 田辺寿男の民俗写真3」



撮影中の田辺寿男氏
武吉孝夫氏撮影

平成23年9月10日(土)～12月18日(日)

民俗写真家・田辺 寿男氏から寄贈された約50,000点の写真資料の中から、土佐の暮らしがいきいきと記録された写真をピックアップして展示します。

来年、冬の特別巡回展

「発掘された 日本列島2011」

平成24年1月2日(月)～2月14日(火)
まで開催、奈良県四条古墳の埴輪など各地の新発見考古資料がみられます。



土偶 縄文時代草創期 根谷熊原遺跡
(滋賀県教育委員会蔵 高さ31mm)